



# ふうの木のある学校から

高鍋町立高鍋西小学校 学校だより 2月号 文責 校長

## きまり、ルール、マナー

令和6年度のまとめと、令和7年度に向けての準備を同時進行中の3学期。

私たち教職員も、今の子どもたちと向かい合う時間を大事にしながらも、次年度に向けた準備に取り掛かっているところです。

先日、2月行事についての協議を進めていく中で、

- ① 子供たちの頭髪や服装は今までいいのか？
- ② 設定されている時間までに登校していない子供が増えてきている。
- ③ 朝の車による送迎が増えてきている。特に、正門からの乗り入れが多い。
- ④ 欠席等の連絡を安全安心メールに一本化できないか。

といったことが話題となりました。

①については、書くときに手元が暗くなるぐらい長い髪、周囲からからかわれるのではないかと心配される髪型、スムーズに活動できるとは言い難いサイズの服装等が例として挙げられます。

小学校での教育活動の充実や中学校との連携、いじめの未然防止等の観点から、一定の歯止めが必要ではないかという考えです。

「きまりがなければ何でもあり？」

「自由とは？」

道徳の授業のような問いかけになりますが、子どもたちにも話し合せたり、保護者みなさんとも一緒に考えたりしていきたいと思っています。

②については、一人で遅刻してくる子の心配です。「遅れる」旨の連絡があれば、対応できる部分もありますが、事件事故に巻き込まれては、元も子もありません。

③については、車による送迎(乗り入れ)は、緊急の場合を除き、講堂側からの送迎をお願いしています。周辺の道路の混雑や職員、業者等との車両事故等を防止するためですので、ご理解ご協力ください。

④については、出席欠席遅刻等の連絡を担当職員が、朝の健康観察までに確実に把握できる方法はないか？という視点から生まれた指摘です。

「安全・安心な学校」「よりよい成長を支える学校」として、本校が在り続けるためには、上記4つ以外にも数多くの課題があります。

全てをいっぺんに解消する手立てを講じることや、学校の職員だけで改善を図ることも難しいと考え、今回、あえて問題提起をしました。

皆さんからの前向きなご指摘等もいただきつつ、コツコツと解決(改善)に向けて努力していきます。

## 二十歳（はたち）の頃・・・

1月5日（日）高鍋町の「二十歳の集い」に来賓として参加しました。

対象者が、およそ140名。  
和服やスーツに身をまとっている方々、それを微笑ましく見守る保護者の皆さんを眺めながら

「法律が改正により、成人が20歳から18歳となったこと」  
「今的小学校生が20歳になる頃の社会情勢のこと」  
「私たちが20歳の頃は・・・」

等々に、思いを巡らせた次第です。

特に、現6年生が二十歳を迎えるのが、およそ8年後。  
どんな出会いや経験をして、どんな希望や夢をもっているだろうか？  
はたまた、高鍋町の二十歳の集いに参加してくれるだろうか？  
未来予想図を描かせてかせてみたくなりました。

## 職員研修

私たち教職員も、授業の進め方や教員としての在り方、最新の教育に関わる情報等について、研修という形で日々学んでいます。

先日は、スクールカウンセラーの先生から、「保護者との教育相談」をテーマに講話ををしていただきました。

「ストレスを受けられやすい存在」  
「治そうとせず、分かろうとせよ」  
「話を視覚的に整理する」  
「時間設定をして傾聴する」  
「チームで対応する」 等々

貴重な提言やアドバイスをいただき、大きな学びの機会となりました。

## 消防団に感謝

1月12日（日）。

小丸川河川敷で行われた消防初式を見に行きました。

まず驚いたのは、現農林水産大臣が来られており、SPや警察の方々がそこかしこに立たれていたことでした。

2学期には代表の方々が本校にも来られて、消防団の役割や大切さを話していただきました。

ふだんはそれぞれの仕事に従事されながら、いざという時は「地域を守る」存在へと変身する方々。

入団者数が減少傾向にあるとのこと。  
「高鍋に生まれ、高鍋で暮らし、高鍋をを守る」存在としての人材を、学校だけでなく地域をあげて育成していく必要性を感じた時間でした。

## 震度5弱

1月13日（月）午後9時19分頃。  
揺れました。津波注意報も出ました。  
小さな余震もありました。

「南海トラフ巨大地震への可能性が高まったとはいえない」  
ようですが、日頃からの備えは大切。

高くて頑丈な施設が少ない地域です。  
地震後の津波を想定した避難場所は確認していますか？

学校では避難訓練を実施していますが、「休日は？登下校中だったら？」

と、子供たちだけで避難しなければならないことも想定した、ご家族での話合いも大切だと考えています。

## 新たな学校運営の手立て

「学年チーム担任制」、「教科担任制」、「1単位40分授業」、「通知票廃止」、「通級指導教室の設置」

等々、子供たちに必要な資質や能力を確実に身に付けさせるために、全国各地で先進的に取り組まれている手立てです。

午前中5時間授業もそのひとつですがすでに本校は取り入れています。

「教職員の専門性を更に活かし」  
「子供たちと向き合う時間を更に確保しながら」  
「効率的効果的に教育活動を行い」  
「適切な評価をすること」

難しい言葉をならべましたが、本校も子供たちのために何かできないか？  
メリット・デメリットを含めて検討を始めているところです。

## 節分・立春

は迎えたものの、ものすごい寒波が日本列島に押し寄せています。

高千穂町や高原町の知人から、雪が降り積もっていく映像が送られてきました。

このあたりの学校は、おそらく臨時休校だらうなあと想像しつつ、昼休みに青空の下、運動場でたくさんの子供たちが活動する本校の様子を返信しました。

一輪車に水を張り、ガーベラの摘花を入れていたら、氷の造形が出来上がっていて、2年生と6年生が

「きれいー！」「きれいだね～」と会話している場面にも遭遇できました。

(撮影 吉田指導教諭 →)

三寒四温、  
冬には冬のよさがあるものですね。

## 「ふ。」(何に見えますか?)

と校長室前に掲示しました。子供達の間で、結構話題になっています。

「ひらがな」と「句点」という視点から見れば、「ふ」と「。」ですよね？

ひらがなを学んでいる人にとっては、「ふ。」は、「フ」と読むと教えられていますから、これも正解。

では、ひらがなを学んでいない人にとってはどうでしょうか？

「ふ」の「〇」の部分を頭、左上と右下の点を腕と見て、句点を「ボール」と見立てていく・・・どうでしょう？

日本人と外国人のものの見方の違いをテーマに放送されていた番組から拝借したクイズ。

正解は「ボーリング」でした。

しかし、興味深いのはソフトボール(下手投げ)、サッカー(ボールを追う)に見える子供もいて、校長室前で友達と熱い議論する声が聞こえてきて、驚きました。

物事を多角的に見たり、考えたりするきっかけになればいいなあ、と掲示してみましたが、思いもよらぬ発見があって、こちらが学ばせでもらう形になりました。

